

平成 30 年度全国学力・学習状況調査の結果 京都市立翔鸞小学校

4 月 17 日に、6 年生 28 名を対象に実施された「全国学力調査」について、結果がまとまりました。本調査は、国語・算数・理科の 3 教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されました。その結果から生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

総合結果（国語・算数・理科）

国語 A（知識）、B（活用）、算数 A（知識）、B（活用）、理科のそれぞれの平均正答率は全て全国平均を上回りました。全体の無回答率はすごく低いのですが、算数 B の玉入れゲームの問題での示された情報を解釈し、条件に合う時間を求める問題で無回答率が全国に比べて高かったです。全体的に見ると、児童が問題に向き合い、最後まであきらめず取り組もうとする姿勢は育ってきて、ポイントがかなり上がっています。

国語科 では

国語 A の「図書館への行き方の説明として適切なものを選択する」問題はよくできていました。また、漢字については、良くできていましたが、「積極的」の積がかけていた児童は 60.7 ポイントでした。書いた文章を読み直し文を正しく書くことができるかどうかを見る「春休みの出来事」の正答率が低かったです。主語と述語を適切に対応させて、文を正しく書くことができていないと考えられます。また、国語 B の目的や意図に応じて、内容の中心を明確にして詳しく書くことができるかどうかを見る「かみかみあえ」の問題では、正答率が低かったです。しかし、推薦する事物を他のものと比較して書くことで、よさが伝わることを捉えることができるかどうかの問題は、全国より 14.9 ポイント高かったです。普段から漢字練習や読書に親しみ、さらに幅広い知識や情報を得ることで、読解力の向上にも繋がるでしょう。

算数科 では

全体的によくできていますが、基礎的な問題も含めて、少し気になる分野がありました。算数 A の「針金 0.2mm の重さと針金 0.1mm の重さを求める問題」では、除法で表すことができる二つの数量の関係を理解しているかどうか、全国より 5.8 ポイント下がっていました。「円周率を求める式として正しいものを選ぶ問題」と「200 人の内 80 人が小学生の時、小学生の人数は全体の人数の何%かを選ぶ問題」の正答率が低かったのですが、円周率は全国より 15.5 ポイント、百分率を求めるのは全国より 0.7 ポイント上回っていました。特に、全国より正答率が高かった問題は、円の直径の長さが 2 倍になった時、円周の長さが何倍になるかを選ぶ問題で、19.4 ポイント上回っていました。算数 B の「メモの情報と棒グラフを組み合わせたグラフを関連付け、総数や変化に着目して複数の観点で考察したり表現したりすることができるかどうかを見る問題」では正答率が低かったのですが、全国を上回っていました。今後も、帯時間や家庭学習での復習により、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図っていけば更に力がついてくるでしょう。

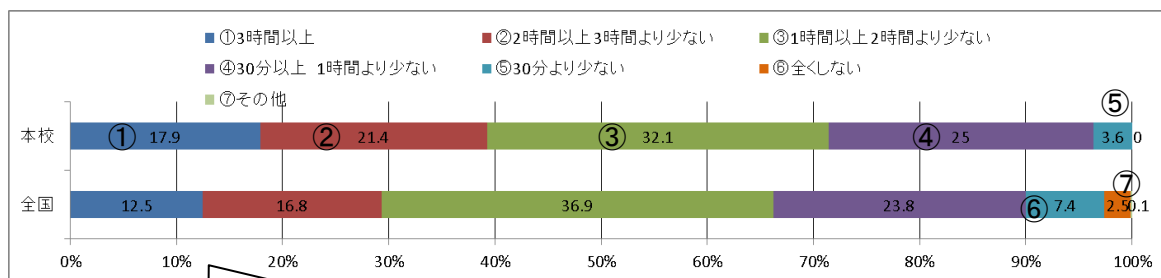
理科 では

「海水と水道水を区別するために、2つの異なる実験方法から得られた結果をもとに判断した内容を選ぶ問題」では、全員が正答し、得られたデータと減少を関連付けて考察することができています。しかし、「大雨が降って流れる水の量が増えたときの地面の削られ方を選び、選んだわけを書く問題」では、正答率が22.2ポイントと低く、分析して考察した内容を記述することに課題があります。また、「太陽の1日の位置の変化と光電池に生じる電池の変化の関係を目的に合ったものづくりに適用できるかどうかを見る問題」では、正答率が全国を下回っていました。これは、太陽の動きについて十分理解できていないことが考えられます。「食塩水を熱したときの食塩の蒸発について、実験を通して導き出す結論を出す問題」では、正答率は33.3ポイントでした。実験結果をもとに分析し、問題に正対したまとめができるようにするには、問題を確認し、実験などで得られた結果を根拠とした考察を行い、実験結果から言えることだけに言及した内容かどうかについて検討することが大切です。

児童質問紙調査から①

質問 学校の授業時間以外に、普段（月～金）、1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか
（塾・家庭教師含む）

	①3時間以上	②2時間以上	③1時間以上	④30分以上	⑤30分より少ない	⑥全くしない	⑦その他
全国	12.5	16.8	36.9	23.8	7.4	2.5	0.1
本校	17.9	21.4	32.1	25	3.6	0	0



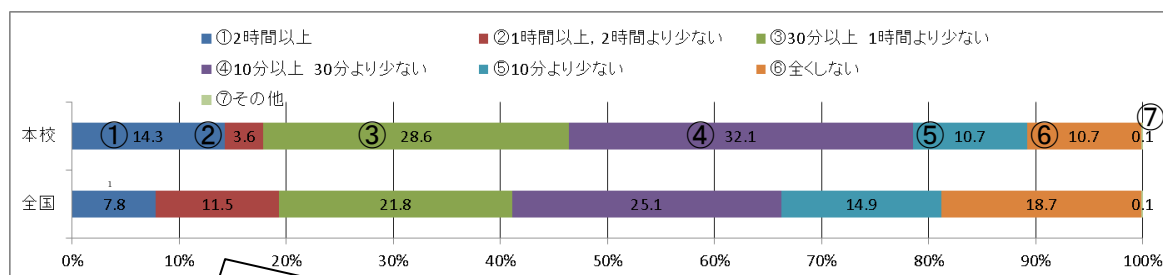
授業以外で1日「2時間以上」勉強すると答えた本校児童の割合は、全国平均と比べ上回っています。「30分より少ない⑤全くしない⑥」と答えた児童は全国平均より下回っています。

家庭学習の時間は全国平均より上回っていますので、さらに家で学習の振り返りをすることが学力向上への大きな鍵となります。家庭での学習の習慣化はとても大切なことです。

児童質問紙調査から②

質問 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、一日あたりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）

	①2時間以上	②1時間以上	③30分以上	④10分以上	⑤10分より少ない	⑥全くしない	⑦その他
全国	7.8	11.5	21.8	25.1	14.9	18.7	0.1
本校	14.3	3.6	28.6	32.1	10.7	10.7	0.1



読書時間 1 日 2 時間以上の児童は全国を上回っていますが、30 分未満の児童が約 53.6%を占めているのが実態です。そして、全く読んでいない児童が 10.7%います。学校では毎日朝読書を実施し、図書館も充実してきていますが、学校での設定された時間だけになる傾向があります。自ら読書することや、家に帰ってから読書をする習慣をしっかりとつけていくことが大切です。

全体を通した本校の成果と課題

本校では、「自ら考え、意欲的に実践する子ども」を学校教育目標に掲げ、保護者や地域の皆様の協力のもと、教職員一丸となって取組をすすめています。その中で「確かな学び」となるよう、授業の中では、めあての提示、集団解決、まとめ、振り返り等、全学年で統一して取り組んでいます。新学習指導要領に示された「生きる力」を育むことを目指して、「何を理解しているか、何ができるか」（基礎的・基本的な知識及び技能）、「理解していること・できることをどう使うか」（思考力・判断力・表現力）、「どのように社会・世界と関わり、より良い人生を送るか」（学びに向かう力、人間性）の教科横断的な「資質・能力の三つの柱」により各教科・領域の相互の関連を図っていきます。そして、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて取り組んでいます。子どもたちの成長には、学校だけでなく、地域全体を学習のフィールドとしてとらえ、幅広く身につけていくことがとても重要です。

学校での学習とともに、その基盤となる「自分で勉強する習慣」は、計画を立てたり、見

通しをもって行動したりする力につながることから、学力向上への大きなポイントであると考えます。学習に対して、意欲的に取り組む姿が見えてきています。

今年度については、学校の授業以外で学習を全くしない児童はいませんでした。朝読書以外に読書をほとんどしない児童が依然としています。家庭学習の手引を全員配布し、自ら学ぶ子どもの育成に向けて取り組んできたことで、家庭での学習時間が1時間未満という児童の割合が約28.6%と、昨年より減ったことは一定の改善が見られてきたと言えます。より力を付けるためにも、家庭学習の充実が本校全体の課題とも言えます。

本校では、「わかる・できる」楽しい授業をめざして、授業形態を工夫したり、ノート指導の定着を図ったりするなど、授業改善に向けた取組を進めています。また、朝読書を含め、学校図書館の活用も昨年度以上に充実した取組になっています。今後も、更なる授業改善、読書や家庭学習の充実に向けた取組を継続させていきたいです。

保護者の皆様へ

全国調査は、子ども達の学習状況を知り、子ども達の可能性をさらに伸ばしたり、課題を解決したりしていくためのものです。結果が学力のすべてを表しているのではなく、順位を競うものでもありません。

学力は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基礎になります。ご家庭での子どもに対する積極的なかわりや指導・支援を今後も引き続きお願いするとともに、子ども達の健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力をお願いします。



pixta.com - 22763660



pixta.jp - 19826713